

## 第 23 回日ロ沿岸市長会議の開催

2011 年9月

日ロ沿岸市長会(事務局 :新潟市国際課)

2011 年8月 22 日及び 23 日、ロシアのサハ共和国ヤクーツク市で第 23 回日ロ沿岸市長会議が開催されました。



### 1. 日ロ沿岸市長会議について

1970 年、ハバロフスクで第1回日ソ沿岸市長会議が開催されたのが始まりです。以来 40 年以上にわたり、厳しい国際情勢に見舞われた時期にあっても都市間ネットワークを生かした活動を続けてきました。

1991 年、ソ連守旧派グループによるクーデター事件が発生。その直後には第 13 回会議がウラジオストクで控えていました。会議の実施が危ぶまれましたがソ連側からは「予定どおり実施する」との連絡があり、培われた信頼関係に基づいて無事会議が行われた一幕もありました。

1997 年1月、ロシアのタンカー「ナホトカ号」の重油流出事故が発生して我が国日本海沿岸の広い範囲で被害が発生。この年に行われた第 16 回会議で双方は、日本海の環境保全に向けた国際協力体制構築などについて日ロ両国政府等に要望書を提出することで合意しました。

このように、日ロ沿岸市長会議は日ロ双方の会員都市の首長らが参加し、日ロ関係に関連する地域・都市の諸問題について率直な議論を行う場となっています。

第1回会議開催をきっかけとして、日本の日本海側をはじめとする地域とロシア連邦極東シベリア地域の親善友好と経済協力を促進し、両地域の発展を図ることを目的に「日ロ沿岸市長会」が 1970 年に設立されました。新潟市長が代表幹事を務め、事務局は新潟市国際課内に置かれています。現在、会員市は函館から舞鶴に至る 18 市となっています。

一方、ロシア側では「日ロ極東シベリア友好協会(会長:ハバロフスク市長、会員市 18 市)」が活動しています。

日ロ沿岸市長会議の詳細は、日ロ沿岸市長会ホームページ <http://www.nichienkai.jp/> をご参照ください。

### 2. 第 23 回日ロ沿岸市長会議の概要

今度で23回目となる会議へは日本側から10市(函館、秋田、由利本荘、新潟、燕、上越、富山、高岡、敦賀、舞鶴)、ロシア側からも10市(ビロビジャン、ブラゴヴェシチェンスク、ワニノ、ウラジオストク、ナホトカ、ペトロパヴロフスク・カムチャツキー、ウラン・ウデ、ハバロフスク、ユジノ・サハリンスク、ヤクーツク)が参加しました。

来賓として高橋在ハバロフスク日本総領事、エフィモフ サハ共和国大統領長官などからご臨席を賜りました。さらに観光・経済の専門家も日ロ双方から参加し、「両地域諸都市の観光交流

発展に向けた施策」、「両地域諸都市における重点経済分野のポテンシャルと協力拡大」の2つの議題で具体的な議論を深めました。

### 3. 会議の成果

会議後には共同コミュニケが採択されました。重要なポイントは次のとおりです。

- ① 東日本大震災と原発事故を受けて日口間でも貿易、観光分野の停滞が見られる状況を共に克服するため、実態に即した情報交換を進めて行くこととした。
- ② 日口間のエネルギー分野での協力を歓迎すること、そしてこれらが両国間の協力関係に肯定的な影響を及ぼすことを確認した。
- ③ 日本の日本海側とロシア極東を結ぶ航路、航空路の整備が両地域間交流の発展に不可欠であるとの認識で一致。特に、震災前から休止が相次いでいる航空路線については、安定運航と利用しやすい運賃の設定を求めて、新たな航空会社参入を視野に入れた関係機関への働き掛けを続けていくこととした。
- ④ 両地域間の経済交流のさらなる発展のため、日口双方の関係法律に精通した専門家を配置した日露両国の貿易投資促進機構のロシア極東代表部を早期に設立するよう両国政府に働きかけることで合意。
- ⑤ 両地域間の観光発展のため日口両言語での双方向の情報提供を促進すること、柔軟な査証制度の採用の必要性を認めた。

次回第24回会議を、2013年に舞鶴市で開催することも決まりました。

なお、今回の会議開催市となったヤクーツク市は、ロシア連邦の面積の約2割を占めるサハ共和国の首都です。永久凍土地帯に位置する都市としては世界最大で、人口およそ30万人。世界的にも珍しい永久凍土博物館、マンモス博物館など多くの見どころがあります。考古学博物館では、古くからこの地に居住していたヤクート人が金属の加工を行っていたことも紹介されています。冬の $-60^{\circ}\text{C}$ という厳しい寒さも日本では味わえない体験と言えるでしょう。

このようなサハ共和国の豊富な観光資源が日本でよく知られておらず、交通も不便です。このたびは、日本との観光、経済分野での協力を強化したいとの地元の要望で第23回会議がヤクーツク市に誘致されたものです。

この会議も着実に歴史を積み重ね、両地域の友好的、実務的協力関係のさらなる発展に貢献できたのではないかと思います。

